

市政記者各位

令和8年10月16日

福岡アジア美術館アーティスト・イン・レジデンス 第2期アーティスト滞在制作開始＆イベント開催！

当館レジデンス事業の第2期（10～12月）として、新たに3名のアーティストがやってきました！Artist Cafe Fukuoka（中央区内）を拠点に、作品の制作やリサーチ、市民とのさまざまな美術交流をおこないます。ぜひ当事業への取材、および広報のご協力をお願いいたします。

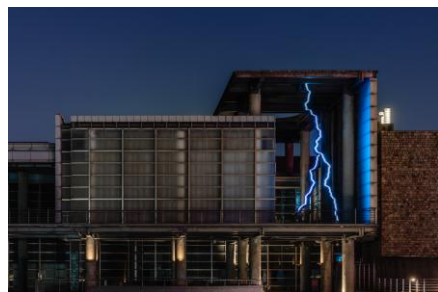
2026年10月24日（土）「キックオフ・トーク」開催！

これまでの活動や福岡でのリサーチ、作品づくりのプランについて、アーティスト自らが紹介。

時 間：14:00～16:00

会 場：Artist Cafe Fukuoka コミュニティスペース(福岡市中央区内2-5)

※参加費無料、申し込み不要、和英逐次通訳



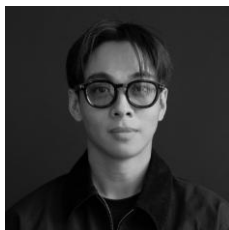
HSIEH Yu-Cheng × Chung-Yuan WANG
《High Voltage》2021年

撮影：Urban Art Studio. Courtesy of the artist.

シエ・ヨーツェン（台湾）
滞在期間：10/6～12/23

「電力」がつなく、
福岡と台湾の歴史

1992年宜蘭生まれ、新北市在住。これまで自然や人工などの境界を問い直す、光などを用いたインスタレーション作品を制作してきた。福岡では、福岡と台湾の近代史や電気・電力エネルギーの関係性をリサーチし、作品制作に展開させる予定。

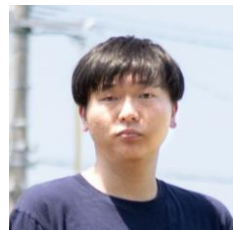


《Drag Queen in Waiting》2025年

ジャン・マヨ（フィリピン）
滞在期間：10/7～12/23

福岡に住むアジアの人々の肖像

1991年マニラ生まれ、同地在住。肖像やアイデンティティ、人と自然の関係をテーマに写真作品を制作。福岡では、福岡在住のアジア出身者について撮影予定。写真を通じて、移民としての経験やそのアイデンティティをいかに記録できるかを探求する。



《OMURA-yaki #3》2023年
Photo by 守屋友樹

チョン・ユギョン（福岡）
滞在期間：10/9～12/23

西戸崎の歴史から辿る
自身のルーツ

1991年兵庫県生まれ、福岡市在住。これまで朝鮮人の「移動」の歴史を検証し、恣意的に引かれる「境界線」や戦争と文化の関係性を問い直してきた。今回は、自身のルーツの一つである西戸崎をリサーチし、かつて存在した米軍基地や朝鮮人集落の痕跡をたどる。